

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 4 4 号 平成 2 6 年 7 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号
公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

平成 2 6 年度福島県農地中間管理事業推進会議が開催されました。

平成26年5月13日(火)郡山市の福島県ハイテクプラザ「多目的ホール」において、福島県、市町村、市町村農業委員会、JA等関係者約200名が一堂に会して、当公社主催により「平成26年度福島県農地中間管理事業推進会議」を開催しました。



この会議は、本年4月30日に当公社が福島県より農地中間管理機構の指定を受けてから初めての会議であり、農地中間管理事業の実施に向けた具体的な事務手続き、事業推進に係るスケジュール等について関係機関・団体の理解と協力を得ることを目的として開催しました。

会議に先立ち、当公社の松浦理事長、農地中間管理事業の主管課である福島県農林水産部農業担い手課大竹課長、農林水産省東北農政局経営・事業支援部農地政策推進課の小林係長よりあいさつがあり、その後会議に移りました。

公社からの主な説明事項は、「農地中間管理事業の概要」、「農地中間管理事業の実施に関する規程」、「事業実施に係る事務手続き」、「スケジュール等」についてで、また、「農地中間管理事業の推進に関する基本方針」については県農業担い手課影山主査より、「機構集積協力金」については同じく県農業担い手課の国井副主査から説明がありました。



その後質疑に移り、機構集積協力金などについての質疑、意見交換などが活発に行われ、出席者皆さまの農地中間管理事業に対する理解を深めることができました。

農地中間管理事業とは、

農林水産業を成長産業とするため、今後10年間で全農地面積の8割を担い手に集積する目標を掲げ、その実現を目指し本年3月に施行された「農地中間管理事業の推進に関する法律」の事業で、農業の生産性の向上を目指し、農用地の利用の効率化及び高度化を促進しようとする地域において、農用地の貸付け希望者から農地中間管理機構(当公社)が農地中間管理権を取得してその利用を集積し、予め公募のあった者から相手方を選定し貸付けする事業です。

農地調整課

農地借り受け希望者の 公募をしています！

農地中間管理事業

募集期間(第1回目)

平成26年8月1日(金)～平成26年9月1日(月)

応募の方法

農地の借受希望者は、応募したい市町村の農政担当課等と相談のうえ、エントリーシート(応募用紙)に必要な事項を記載して、市町村農政担当課へ提出するか直接公社へ郵送又は電子メールに添付して送信してください。

市町村農政担当課では、提出のあったものに受付印を押印し、写しを応募者に返却します。

公社に電子メールで応募のあった場合は、本人に電話で確認後、電子メールで受付をした旨を返信します。

エントリーシートは、市町村農政担当課窓口準備してあります。公社のホームページから様式をダウンロードすることもできます。

市町村農政担当課は、募集期間中10日毎に取りまとめて公社に送付します。

エントリーシートに記載する内容

借受けを希望する農用地等の種別(田、畑の別) 面積、希望する農用地等の条件

借受けた農用地等に作付けしようとする作物の種別

借受けを希望する期間

現在の農業経営の状況(作物ごとの栽培面積等、農業従事者名、年間農業従事日数、所有農機具)

農用地等を借り受けようとする理由(規模の拡大、農地の集約化、新規参入等)

その他必要な事項(氏名又は名称、住所、中心経営体、認定農業者、認定就農者など、担い手としての位置付けの有無、法人の場合は常時従事者名)

応募者の応募内容について、公社のホームページで公表します。

公表する内容

氏名又は名称

当該区域内の農業者、区域外の農業者、新規参入者の別

借受けを希望する農用地等の種別、面積

借受けた農用地等に作付けしようとする作物の種別

留意事項

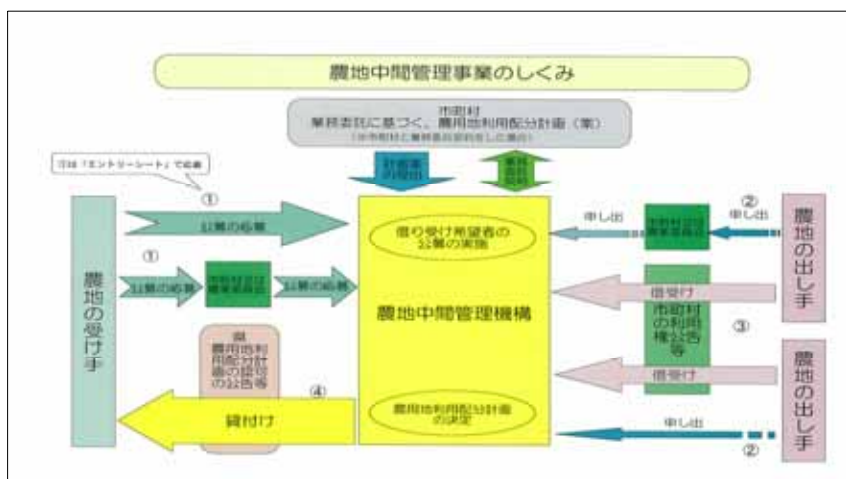
応募内容の変更や取り消しを希望する場合は、その旨を公社又は市町村農政担当課へ申し出てください。

応募内容は、変更や取り消しの申し出がない限り、応募した年度から3年後の3月末日(本年度は、平成29年3月31日)までを有効期限として取り扱います。期限を経過した借受希望者は、再度応募していただくことになります。

公社は応募者の応募内容を公表することが義務付けされております。公表に同意されない場合は、応募の受付はできません。

公社は、応募内容等の個人情報について、個人情報の保護に関する規程及び農地中間管理事業業務委託契約に基づき、適正に管理し本事業の実施に必要な範囲で利用します。

第2回目の公募は、12月を予定。



青年就農給付金を19名に給付

新規就農希望者が農業技術や経営方法を取得するための研修に専念するために、当会社から給付金を給付する青年就農給付金(準備型)事業の平成25年度の給付実績は、19人、21,250千円でした。19人の受給者の研修先は、13名が先進農家等で、6名が県農業総合センター-農業短期大学校となっております。

なお、研修期間別受給者内訳は、右のとおりです。

| | 研修期間別受給者内訳 (単位:人、千円) | | | 計 |
|----------------|----------------------|-------|-------|--------|
| | 研修期間 | | | |
| | 1年 | 1~2年 | 2年 | |
| H24年度 継続受給者 | 5 | | 4 | 9 |
| H25年度 新規受給者 | 6,750 | 3,250 | 4,500 | 14,500 |
| 合計 | 10,500 | 3,250 | 7,500 | 21,250 |

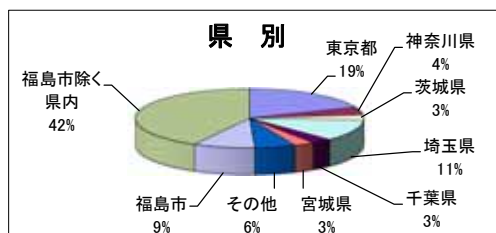
平成25年度の 新規就農相談者数は69名

当会社の青年農業者等育成センター-では、新規就農希望者からの就農相談業務を行っておりますが、平成25年度の新規就農相談者数は、69名でした。

東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故の影響から、まだ震災前平成22年度の140名の半分の相談者数となっておりますが、ここ数年は少しずつではありますが、増加傾向で推移しております。

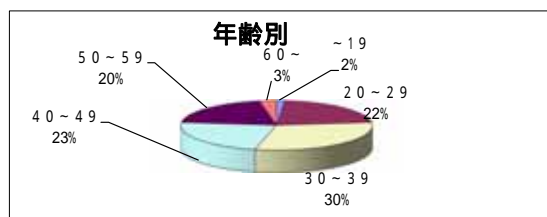
相談者の内訳を住所別で見ると県内の相談者数が35名(51%)、県外の相談者数が34名(49%)で、県内、県外ともに半分ずつの割合となっております。

県外の相談者数は、昨年より若干ではありますが増加しております。

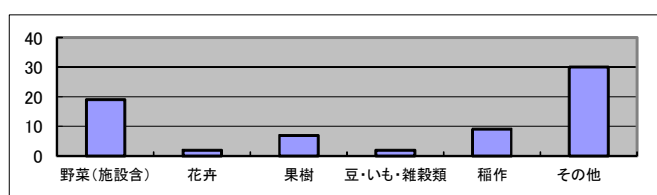


年齢別では、20代が15名、30代が21名、40代16名、50代14名となっております、各年

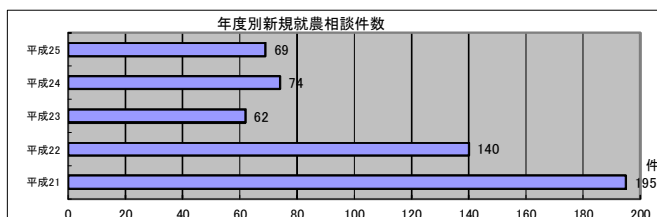
齢層からほぼ同程度の割合の方から相談を受けています。



また、希望作目別では、野菜(施設を含む)19名、稲作9名、果樹7名、その他30名(未定含む)となっており、特に野菜が多いのは、新規就農者の各種アンケート調査等の結果と同様な傾向を示しています。



なお、これまでの過去5年間の相談者の状況は、下記グラフのとおりとなっております。



今号のコラム

「東北六魂祭」

夏と言えば「夏祭り」。東北でも有名な祭りがたくさんあり、それを一堂に楽しめるのが「東北六魂祭」です。2011年に仙台市から始まり、12年は盛岡市、13年は地元福島市、そして今年は山形市で開催されました。昨年福島市での開催は、ブルーインパレスの航空ショーもあり、市政始まって以来最多となる二日間で25万人もの観光客などの来場で、大いに盛り上がり無事成功裏に終えたことは、まだ記憶に新しいところです。

その中で私が特に感動したのは、盛岡の「さんさ踊り」です。太鼓を叩きながら踊る姿は、迫力もありまたテンポもあり、また一方で優雅できらびやかさもあり、特に「ミスさんさ踊り」による踊りは、華麗で見入ってしまいました。来年15年の六魂祭は、おそらく青森県か秋田県どちらかで開催されると思われませんが、多くの来場者のもと、また大いに盛り上がることを今から楽しみにしています。(H.T)

農業をより楽しく！

会長 谷津佑一

今年4月より福島県農業青年クラブ連絡協議会長を務めております谷津佑一です。当協議会では、「農業を活気あるものに」、「付加価値のある農業青年クラブづくり」をテーマとして農業者、消費者、学生との交流を中心に活動しています。

今年度の活動としては、例年実施しているスポーツ交流大会、ふくしま農見本市、東北農村青年会議、福島県農村青年会議（プロジェクト・意見発表、わらしべ長者的研修）に加え、新しい取り組みとして勉強会（農政、栽培技術等）県農業総合センター農業短期大学校生との意見交換会などを計画しています。今年7月に実施したスポーツ交流大会では、矢吹町の体育館を会場に約30名が参加し、ソフトバレーボールとフットサルを楽しみ、夜は泉崎村でバーベキューをして交流を深めました。

一方、福島県内だけではなく、他県の4Hクラブと交流する機会もあり、今年の4月には福井県の小浜市を会場として行われた直売イベント「ツナガルマルシェ」に参加し、福井や中四国地方の4Hクラブ員と交流しました。本県ブースでは農産物の販売はしませんでした。県のパンフレットを配るなどのPR活動を行いました。

また、今年は農業高校生や農業短大生との交流にも重点を置き、各機関と連携した活動を企画し

ています。新規就農者数は好転の兆しを見せていますが、若い世代に少しでも農業に興味を持ってもらい、農業を職業としてイメージできるきっかけ作りになればと思います。



現在、農業はTPPや原発事故の風評対策、嫁不足など多くの課題を抱えています。しかし、私たち農業者が団結し知恵を出し合い、できることから動き出せば、状況は打開できると信じています。そして、何より農業を楽しむことが大事であり、本会でも若い力を生かした発想力で、運営する側も参加する方々も楽しめる活動をしていきたいと考えています。



スポーツ交流大会の参加者（筆者は向かって中央手前の右側）

編集後記

本当の底力とは、このようなことを言うのであろう。去る7月26日に行われた全国高校野球選手権福島大会の決勝戦である。

決勝に残ったのは、下馬評通り、日大東北と聖光学院であった。試合は9回の裏ツ - アウト、日大東北が6 - 2で勝っており、あと1人アウトを取れば試合終了というところまで聖光学院を追い詰めたが、結局、同点に追い付かれ、11回の裏、聖光学院のサヨナラ勝ちとなった。

昨年に引き続き、最後に聖光学院が底力を見せた格好となったが、聖光学院には、この底力を甲子園でも発揮してもらい、これまで以上の結果を期待したいものである。 k k

お問い合わせ

あて先 〒960-8681
福島市中町8番2号 福島県自治会館8F
公益財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277
URL <http://www.fnk.or.jp>